

## 研修報告書 No.20

所 属： 昭和大学病院

研修先： 土佐市民病院

土佐市民病院にて 2025 年 1 月 6 日から 1 月 31 日まで地域医療研修を行いました。私は土佐市だけでなく、高知県、ひいては四国に初めて訪れましたが、実際の高知県は自分で思っていた以上に自然豊かで東西に広い県なのだなと体感しました。幸運にも快晴な日和に恵まれ仁淀川や山々の豊かな自然を感じながら日々を過ごすことができたのですが、その一方で高知県に来る前はレンタカーで西へ東へドライブすることを夢想していましたが、実際のところ高知県はとても東西に広く、西は須崎市、東は南国市まで行くので精一杯でした。様々な地域で観光名所を巡ったりその地域の名物料理を食べたりお酒を飲んだり地元の方とお話した経験は唯一無二なものであり一生の思い出となりました。

生活についてはスーパーやホームセンター、飲食店や病院など生活に必要な施設が土佐市内に限らずそれぞれのコミュニティのエリア内にコンパクトにまとまっており、とても生活はしやすそうであると実感しましたが、翻って高度で先進的な医療を受けようと考えたときに移動などがとても大変そうだなと思いました。地域医療の集約化が叫ばれて久しいですが、少子高齢化の進む高知県やその他の地域でそのような理想を掲げることは簡単でも実現は相当厳しいのではないかと改めて考えさせられました。

研修で特に印象深かったことは内科外来を担当したことです。これまでも自身の研修病院において救急外来や外来の医療面接を行う機会はありませんでしたが、いずれも上級医の濃密なバックアップあってのものでした。今回経験させていただいた内科外来では、もちろん上級医のバックアップはあるものの基本的には研修医自身で最初から最後まで考え行動、実践できるものでした。最初は自分一人で外来を取り仕切ることに大きな不安を感じていましたが、上級医の先生方、外来の看護師の方々など病院のスタッフの皆様が非常に優しく自分をバックアップしてくださり、外来にだんだんと慣れてきてからは楽しく感じるようになりました。自分の研修している時期はちょうど COVID-19 やインフルエンザが大流行していたため、発熱の患者さんを多く診る機会を経験できました。外来がとても忙しいと、発熱の患者さんが来たときに、つい早急に患者さんを帰したくなりそうでしたが、そんなときこそ初心に立ち返り医療面接から検査、評価をひとつひとつ丁寧に行うように心がけました。この外来を通して患者さんに対して丁寧に対応に当たることの大切さを改めて考え直すことができました。

内科外来から入院させることとなった患者さんについても自身で担当医を務め、大変貴重な経験になりました。治療方針について考え吟味し、上級医の先生と相談したときに自身の診療能力が確かに成長していること、深みが増していくような感触を得ることができ、今

後の医師人生において大切な糧となると思いました。また、患者さんに対してのみならず患者さんの家族に対して病状を説明する機会が多くあり、自身の説明能力のなさを痛感させられるとともに大きく成長することができたと思います。COVID-19 の流行で面会が禁止されていたため、電話で家族の皆様に対して説明する機会が多かったのですが、高齢者には耳の遠い方も多く非常に骨の折れる経験だったなと感じています。あるときには、難聴の方が電話だと聞き取れないからと急に病院を訪ねてきたのでとても驚きましたが、そのような状況でも丁寧に対応することは大変ではありますが大切なことだと思われました。

今回、土佐市民病院で経験させていただいたかけがえのない経験を糧に今後の医師人生をより充実したものにしていきたいと思えます。